

## 牧野田恵美子教授経歴

### 学歴

- 1958(昭和33)年3月 日本女子大学家政学部社会福祉学科卒業  
1963(昭和38)年3月 日本社会事業学校研究科修了

### 職歴

- 1958(昭和33)年4月～1962(昭和37)年3月  
藤沢病院精神科ソーシャルワーカー
- 1963(昭和38)年4月～1966(昭和41)年1月  
神奈川県立精神衛生センター精神科ソーシャルワーカー非常勤職員
- 1966(昭和41)年2月～1970(昭和45)年3月  
神奈川県立精神衛生センター事務吏員
- 1967(昭和42)年10月～1969(昭和44)年12月  
神奈川県立衛生学院非常勤講師(医療社会事業担当)
- 1970(昭和45)年4月～1971(昭和46)年3月  
日本社会事業学校付属いたる学園(精神薄弱児通所施設)相談員
- 1971(昭和46)年4月～1988(昭和63)年3月  
川崎市社会復帰医療センター福祉職
- 1975(昭和50)年10月～1977(昭和52)年10月  
神奈川県立衛生学院非常勤講師(精神衛生担当)
- 1980(昭和55)年12月～1982(昭和57)年3月  
関東労災看護専門学校非常勤講師(社会福祉担当)
- 1984(昭和59)年10月～1985(昭和60)年3月  
日本女子大学文学部非常勤講師(精神医学ソーシャルワーク担当)
- 1988(昭和63)年4月～1993(平成5)年3月  
日本女子大学文学部社会福祉学科助教授(医療社会事業論、社会福祉現場実習担当)
- 1990(平成2)年4月～1994(平成6)年3月  
日本女子大学大学院文学研究科社会福祉学専攻担当(精神障害者福祉(特殊研究Ⅰ)、社会福祉実習担当)
- 1992(平成3)年4月～1993(平成5)年3月  
自治医科大学看護短期大学非常勤講師(社会福祉学担当)
- 1993(平成5)年4月～1996(平成8)年3月  
日本女子大学人間社会学部社会福祉学科助教授(改組のため)
- 1993(平成5)年4月～1998(平成10)年3月  
社会福祉法人社会福祉活動教育研究所専門相談員(非常勤)
- 1994(平成6)年4月 日本女子大学大学院人間社会研究科社会福祉学専攻(社会福祉特殊講義Ⅲ担当)  
(改組のため)(現在に至る)

1995(平成7)年10月～1998(平成10)年3月

川崎市立看護短期大学非常勤講師(社会福祉学担当)

1996(平成8)年4月 日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授(現在に至る)

1998(平成10)年4月～1999(平成11)年3月

浦和短期大学非常勤講師(社会福祉援助技術各論、ソーシャルケースワーク担当)

1999(平成11)年4月～2000(平成12)年3月

調布学園短期大学非常勤講師(社会福祉援助技術各論、ソーシャルケースワーク担当)

2003(平成15)年4月～2004(平成16)年3月

田園調布学園大学非常勤講師

## 社 会 的 活 動

### <学会・委員会等>

1987(昭和62)年9月 日本精神衛生学会会員(現在に至る)

1988(昭和63)年4月 日本社会福祉学会会員(現在に至る)

1990(平成2)年9月～1992(平成4)年3月

日本精神医学ソーシャル・ワーカー協会精神障害者福祉研究委員会委員長

1991(平成3)年4月～1994(平成6)年3月

厚生省社会局被保護精神障害者福祉促進モデル事業評価検討委員

1992(平成4)年4月 精神障害者通所作業所運営団体「ふれあいの会」代表(現在に至る)

1993(平成5)年10月 日本介護福祉学会会員(現在に至る)

1994(平成6)年9月～1995(平成7)年8月

アメリカ・サクラメント精神障害者セルフヘルプセンター客員研究員

1995(平成7)年9月～2003(平成15)年3月

日本精神医学ソーシャル・ワーカー協会倫理綱領委員会委員

1997(平成9)年4月 日本精神医学ソーシャル・ワーカー(現日本精神保健福祉士)協会監事(現在に至る)

1997(平成9)年4月～1998(平成10)年3月

精神保健福祉士カリキュラム検討委員

1997(平成9)年4月 社会福祉法人パール(高齢者福祉施設運営)理事(現在に至る)

1998(平成10)年4月～2003(平成15)年3月

精神保健福祉士国家試験委員

1998(平成10)年10月 日本精神障害者リハビリテーション学会会員(現在に至る)

1999(平成11)年2月～2000(平成12)年12月

公衆衛生審議会(精神保健福祉部会)委員

1999(平成11)年4月 横浜市精神保健福祉審議委員(現在に至る)

1999(平成11)年4月 精神保健福祉士協会誌「精神保健福祉士」編集委員(現在に至る)

1999(平成11)年7月 国立精神・神経センター精神保健研究所評価委員(現在に至る)

- 2001(平成13)年3月 財団法人川崎ボランティアセンター(現かわさき市民活動センター)理事(現在に至る)
- 2001(平成13)年4月 横浜市精神保健福祉センター検討会委員(現在に至る)
- 2003(平成15)年11月 地域作業所あり方検討委員(川崎市健康福祉局)(現在に至る)
- 2003(平成15)年12月 かわさき市民活動センター中長期計画策定委員会(かわさき市民活動センター)(現在に至る)

#### 研究調査団体への参加

- 1992(平成4)年4月～1994(平成6)年3月  
「社会復帰活動に参加する精神障害者を対象とした全国福祉ニード調査研究」  
研究班員 全国精神障害者家族連合会研究所
- 1993(平成5)年4月～1995(平成7)年3月  
「全国に組織された精神障害者患者会の活動状況調査」全国調査班班長 全国  
精神障害者家族連合会研究所

## 研究業績一覧

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所, 発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
<b>(著書)</b>				
1 ケースワーク実践の基礎	共 著	昭和46.12	全国社会福祉 協議会	「精神医療に対するケース」を担当。 pp188～210。日本社会事業学校連 盟編集。
2 日本のケースワーク	共 著	昭和53.09	家政教育社	「精神障害者の就労援助」を担当。 pp281～290。松本武子編集。
3 精神障害者福祉	共 著	昭和57.10	相川書房	「闘病における生活問題」を担当。 pp191～203。田村健二、坪上宏、 浜田晋、岡上和雄編集。
4 社会リハビリテーション の実践	共 著	昭和58.11	誠信書房	「精神障害者の生活問題と自立生活」 を担当。pp86～95。小島蓉子編集。
5 ソーシャルワーク事例集1	共 著	昭和59.09	誠信書房	「精神障害者の就労援助」を担当。 pp129～143。山崎道子、藤本昇、 西尾祐吾編集。
6 精神障害者の就労援助	共 著	昭和63.02	マキノ出版	「精神障害者の就労援助」「集団就 労の効果と課題」を担当。pp9～26。 150～165。岡上和雄編集。
7 障害者福祉論	共 著	平成02.04	建帛社	「障害者の概念と実態－精神障害者」 「障害者援助の法とサービス－精神 障害者」「事例研究1. デイケアを 利用して就職したケースへの処遇」 「事例研究2. 作業所への通所を決 めた分裂病回復者」を担当。pp23 ～26、46～54、188～194。小島容 子編集。
8 国際化時代の福祉課題の 展望	共 著	平成04.11	一粒社	「国際化時代のわが国の精神保健福 祉の課題」を担当(13ページ)。佐藤 進編著
9 21世紀社会福祉学	共 著	平成07.07	有斐閣	「精神障害者の社会生活援助」を担当。 pp114～128。一番ヶ瀬康子編集。
10 精神障害者の地域生活	単 著	平成09.06	一橋出版	

11	精神保健福祉援助技術援助各論	編 著	平成10.04	へるす出版	「精神障害者を対象とした個別援助技術」を担当。pp1～47。牧野田恵美子、荒田寛編集。
12	社会福祉援助活動	共 著	平成10.06	岩崎学術出版	山崎美貴子、北川清一編著
13	精神保健福祉援助技術援助総論	共 著	平成10.06	へるす出版	「社会福祉サービスと援助活動」を担当。pp12～24。柏木昭、大野和男編集。
14	精神保健福祉援助技術援助実習	編 著	平成10.06	へるす出版	「教育機関の実習事前教育」「実習生に求められる事前準備」「実習生が守るべき義務と心得」「実習指導教員が留意すべき事項」「精神保健福祉現場実習と専門職のあり方」を担当。pp17～34、pp41～43、pp46～48、pp115～122。牧野田恵美子、荒田寛、吉川公章編集。
15	仲間っていいな10年 -泣いた・笑った・ ふれあった-	共 著	平成11.03	川崎ふれあいの会	「メンバーによるメンバーのための活動」を担当。
16	精神障害者の地域生活 新改訂版	単 著	平成11.09	一橋出版	
17	世界の社会福祉第7巻 アメリカ・カナダの 社会福祉	共 著	平成12.02	旬報社	アメリカの社会福祉の中で、精神保健福祉について論じた。pp146～157。仲村優一、一番ヶ瀬康子編集
18	社会福祉援助技術現場 実習	編 著	平成14.03	建帛社	「社会福祉援助技術現場実習の目的と意義」を担当。pp1～16、36～40。米本秀仁、牧野田恵美子、川廷宗之、平塚良子編集。
19	指導者のためのPSW 指導Guide	編 著	平成14.09	へるす出版	「教育機関の実習事前教育」「実習生に求められる事前準備」「実習契約と文書」を担当。牧野田恵美子他編集。
20	実習生のためのPSW 実習ハンドブック	編 著	平成14.09	へるす出版	「実習生に求められる事前準備」「実習の留意点」「現場実習と専門職のあり方」を担当。牧野田恵美子他編集。

21	社会福祉援助技術演習	編 著	平成15.03	建帛社	「面接技法」「情報と提案」「話を取りまとめる」「疑似体験」を担当。米本秀仁、牧野田恵美子、川廷宗之、平塚良子編著
22	日本女子大学社会福祉学科80年史	共 著	平成15.07	日本女子大学社会福祉学科80年史編集委員会	「人間社会学部における実習体制の整備」を担当。
<b>(学術論文)</b>					
1	神奈川県下における精神障害者の社会復帰に関する調査	共 同	昭和42.08	第4回日本医療社会事業学会誌	共同研究者 森三郎、牧野田恵美子、稲本誠一、壁谷規澄、芦川ひろみ。共同研究のため、本人担当部分抽出不可能
2	地域精神衛生における医療社会事業の役割	共 同	昭和43.05	神奈川県医療社会事業協会「医療社会事業事例研究集」第9集	共同研究者 牧野田恵美子、稲本誠一、壁谷規澄、草野正策。共同研究のため、本人担当部分抽出不可能
3	精神障害者のデイケア活動	共 同	昭和43.07	神奈川県立精神衛生センター「精神衛生センター所報」第3集	共同研究者 石原幸夫、森靖博、牧野田恵美子、菊地正子、渡辺真。共同研究のため、本人担当部分抽出不可能
4	精神障害者の社会復帰施設に関する調査研究	共 同	昭和46.03	神奈川県保健文化賞受賞記念事業委員会「保健文化賞記念事業研究報告集」第7集	共同報告者 石原幸夫、鈴木直哉、菊地正子、牧野田恵美子。共同研究のため、本人担当部分抽出不可能
5	慢性分裂病の就労と社会生活	単 独	昭和60.05	「臨床精神医学」第14巻第5号	pp789～793
6	精神障害者の就労援助	単 独	昭和60.06	「川崎市社会復帰センター所報」第8集	pp62～65

7	大学における社会福祉実 習教育に問われているもの	単 独	平成01.04	ソーシャルワ ーク研究所「ソー シャルワーク 研究」第15巻 第1号	pp7～10
8	精神障害者の働く場作り とソーシャルサポート	単 独	平成01.09	日本女子大学 社会福祉学科 「社会福祉」第 28号、第29号 合併号	pp130～140
9	精神障害者作業所通所者 の生活と意識	単 独	平成02.03	日本女子大学 社会福祉学科 「社会福祉」 第30号	pp57～71
10	社会福祉学科における社 会福祉現場実習教育	単 独	平成03.03	日本女子大学 人間社会学部 「日本女子大学 紀要」創刊号	pp143～156
11	本学科における医療福祉 実習教育	単 独	平成03.03	日本女子大学 社会福祉学科 「社会福祉」 第31号	pp41～49
12	精神障害者福祉	単 独	平成04.01	日本リハビリ テーション協 会「リハビリ テーション研 究」No.70	pp21～26
13	精神病院における精神障 害者の人権と福祉	共 同	平成04.10	日本精神医学 ソーシャルワー カー協会「精 神医学ソーシ ャル・ワーク」 No.30	共同研究のため、本人担当部分抽出 不可能
14	精神障害者の地域活動	単 独	平成05.03	日本女子大学 社会福祉学科 「社会福祉」 第33号	pp56～62

15	地域で暮らす単身者の生活実態と援助の視点	共同	平成05.10	全国精神障害者家族会連合会「レビュー」No.5	共同研究のため、本人担当部分抽出不可能
16	精神病院入院患者の人権とソーシャルワーカー	単独	平成06.03	日本女子大学人間社会学部「日本女子大学紀要」第4号	pp199～207
17	精神病院におけるソーシャルワーカーの業務と役割	単独	平成06.03	日本女子大学社会福祉学科「社会福祉」第34号	pp86～96
18	精神保健におけるセルフ・ヘルプグループと援助技術について	単独	平成08.03	日本女子大学社会福祉学科「社会福祉」第36号	pp133～141
19	sacramentの精神保健	単独	平成08.08	精神障害者社会復帰促進センター「レビュー」No.15	pp54～57
20	学生の社会福祉現場実習における成果と福祉現場に対する意識について	共同	平成09.03	日本女子大学人間社会学部「日本女子大学紀要」第7号	共同研究のため本人担当部分抽出不可能
21	sacramentにおけるセルフ・ヘルプ・グループメンバーの生活と意識	単独	平成09.03	日本女子大学社会福祉学科「社会福祉」第37号	pp57～66
22	21世紀をめざす社会福祉	単独	平成09.04	鉄道弘済会「社会福祉研究」第68号	pp91～96
23	医療ソーシャルワーカーの業務と卒後研修-新人研修における大学の役割-	共同	平成10.03	日本女子大学社会福祉学科「社会福祉」第38号	共同研究のため、本人担当部分抽出不可能



24	地方分権時代の社会福祉の専門性をめざして	単 独	平成10.04	鉄道弘済会 「社会福祉研究」第71号	pp99～103
25	社会福祉現場実習における実習課題の達成について	共 同	平成11.03	日本女子大学 社会福祉学科 「社会福祉」 第39号	共同研究のため、本人担当部分抽出不可能
26	精神病院におけるPSWの業務と資格	単 独	平成12.03	日本女子大学 社会福祉学科 「社会福祉」 第40号	pp81～97
27	海外及び国内のソーシャルワーカー団体倫理綱領	単 独	平成12.09	精神保健福祉士協会「精神保健福祉」 第43号	pp9～12
28	精神保健福祉実践現場の家族援助	単 独	平成12.10	相川書房「ソーシャルワーク研究」Vol.26 No.3	pp25～31
29	カナダ・バンクーバーの地域精神保健	単 独	平成13.03	日本女子大学 社会福祉学科 「社会福祉」 第41号	pp127～133
30	作業所メンバーのバンクーバー精神保健研修旅行	共 同	平成13.09	精神保健福祉士協会「精神保健福祉」 第47号	第37回精神保健福祉士協会全国大会報告。
31	社会福祉現場実習の現状	共 同	平成14.03	日本女子大学 社会福祉学科 「社会福祉」 第42号	共同研究のため、本人担当部分抽出不可能
32	日本の社会福祉の発達と本学社会事業学部創設の意義に関する研究	共 同	平成14.11	日本女子大学 総合研究所紀 要第5号	「アンケート調査にみる本学卒業生」を担当

33	リカヴァリとは何か	共 同	平成15.09	精神保健福祉士協会「精神保健福祉」第55	第2回日本精神保健福祉士学会報告
34	精神病からのリカヴァリとリカヴァリとを促進する精神保健システム	共 同	平成15.09	精神保健福祉士協会「精神保健福祉」第55	第2回日本精神保健福祉士学会報告
<b>(その他)</b>					
1	精神障害者・家族の生活と福祉ニーズ	共 同	平成06.03	全国精神障害者家族会連合会保健福祉研究所	岡上和雄、牧野田恵美子、他8名。共同研究のため、本人担当部分抽出不可能。pp34～46
2	高齢者の地域生活を豊かにする「福祉と医療のネットワーク化－在宅高齢者と要介護者の実態調査－」(地域福祉活動計画策定・中間報告)	単 独	平成06.05	パールライフ協会	共同執筆のため、本人担当部分抽出不可能。ただしpp62～66を単独担当。
3	精神病院におけるソーシャルワーカーの業務	単 独	平成07.06	日本精神医学ソーシャルワーカー協会「精神医学ソーシャル・ワーク」No.34	調査報告。pp63～82
4	カリフォルニアの精神保健と福祉	共 同	平成07.10	社会福祉活動教育研究所「社会福祉活動教育研究」No.36	pp2～7
5	高齢者の地域生活を豊かにする「福祉と医療のネットワーク化－終末期ケア・ホスピスケア・個人のニーズにあった食事サービスの実施－」(地域福祉活動計画策定・報告)	共 同	平成08.03	パールライフ協会	共同執筆のため、本人担当部分抽出不可能。ただしpp23～27を単独担当。

6	精神医療に関するコメディカルのあり方に関する研究	単 独	平成 10. 03	平成9年度厚生科学研究分担研究	「精神医療にかかわるコメディカルの特質と近年の動向－精神医学ソーシャルワーカー」を分担。
7	第34回日本精神医学ソーシャル全国大会	単 独	平成 13. 09	精神療法Vo.24 No.6金剛出版	第34回日本精神医学ソーシャルワーカー全国大会についての報告
8	現代学校教育大事典	単 独	平成 14. 07	現代学校教育大事典、ぎょうせい4巻	「精神保健福祉士」について記述
9	悩める精神保健福祉士のために；アイデンティティ・価値・倫理綱領	共 同	平成 14. 09	精神保健福祉 Vol.33／No.3 通巻51号	自主企画パネルディスカッションの発表とまとめ、pp256～263
10	書評 スレッシュホールズ・プログラム		平成 14. 12	精神保健福祉 Vol.33／No.4 通巻52号	
11	高等学校福祉科用教科書 社会福祉援助技術	編 著	平成 16. 01	一橋出版	「社会福祉援助活動の意義と方法」を担当